

「ともに育ち合う」 - 新たな幼児教育に向けて 平成19年度附属幼稚園公開研究会に200名

去る11月17日(土)、弘前大学教育学部附属幼稚園において平成19年度公開研究会が開催された。県内外の幼児教育関係者が参加し、その参加人数は前回の公開研究会を越えて、約200名であった。子どもを取り巻く環境が変化するなか、附属幼稚園の実践に対する期待と注目度は高いと言える。

当日の公開保育では、多くの大人に囲まれて緊張する子どももいたが、多くの子どもはいつもの笑顔で遊ぶ様子が見られた。附属幼稚園では昨年度より、『ともに育ち合うー遊びを深める援助ー』をテーマに研究を進めており、当日は公開保育とともに研究発表が行われた。そのなかで、子ども同士が「ともに育ち合う」ために、「好きな遊びの時間」と「みんなの時間」の活動の連続性を目指す取り組みの報告がなされた。新たな試みとして夏から始まった異年齢保育の時間である「わくわくタイム」(月3回程度実施)が、公開保育で実践され、参加者からは様々な反響があった。研究協議では、他の幼稚園・保育所での異年齢保育の状況についてのお話や、「わくわくタイム」を通じた子どもの育ち、活動内容の選定などに対する質問が出され、意見交換がなされた。

さらに研究協議の後、文部科学省初等中等教育局幼児教育課教科調査官の篠原孝子先生より『今後の幼児教育の在り方』についてご講演をいただいた。篠原先生からは、これからの幼稚園教育要領の改訂内容や、今後の幼児教育の方向性についてのお話をいただいた。今後の幼児教育の方向性としては(1)家庭・地域社会・幼稚園等施設の三者による総合的な幼児教育の推進や、(2)幼児の生活の連続性及び発達や学びの連続性を踏まえた幼児教育の充実が挙げられた。また篠原先生には公開保育の参観から、保育のねらいに応じた幼稚園教諭の声かけや環境設定について、具体的にご助言をいただいた。

青森県内外の幼児教育関係者にとって、この研究会は「新しい時代の幼児教育」をともに考える機会となった。

(管田貴子・学校教育(幼児)講座)



写真-1 公開保育の一角



写真-2 篠原孝子先生による講演